別表第２（第２条関係）

１～５　（略）

６　飼料添加物一般の試験法

（略）

⑴～⑬　（略）

⑭　酵素力試験法

①～⑦　（略）

⑧　フィチン酸分解力試験法

（略）

(i)・(ii)　（略）

(iii)　第３法

基質溶液の調製

あらかじめフィチン酸ナトリウムをデシケーター（シリカゲル）中で24時間以上乾燥し、その1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、0.2mol／Ｌクエン酸・クエン酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）(クエン酸ナトリウム58.82ｇ（58.815～58.824ｇ）に水を加えて1,000mLとし、また、クエン酸42.02ｇ（42.015～42.024ｇ）に水を加えて1,000mLとし、これら２つの溶液をpH5.5となるように混合して調製）65mLを加えて溶かし、0.2mol／Ｌクエン酸試液（クエン酸4.2ｇ（4.15～4.24ｇ）に水を加えて溶かし、100mLにして調製）でpHを5.5に調整した後、100mLの全量フラスコに入れ、同緩衝液を標線まで加えて100mLとする。

発色液の調製

硫酸60mLを水1,000mL中にかき混ぜながら徐々に加えた後、放冷し、１mol／Ｌ硫酸試液を調製する。モリブデン酸アンモニウム2.5ｇ（2.49～2.54ｇ）に水を加えて溶かし、100mLとし、モリブデン酸アンモニウム試液を調製する。アスコルビン酸10ｇ（9.9～10.4ｇ）に水を加えて溶かし、100mLとし、アスコルビン酸試液を調製する。１mol／Ｌ硫酸試液３容量にモリブデン酸アンモニウム試液１容量及びアスコルビン酸試液１容量を加え、混合する。発色液は、用事調製する。

反応停止液の調製

トリクロル酢酸150ｇ（145～154ｇ）に水を加えて溶かし、1,000mLとする。

操作法

試料溶液は、各条で規定する方法で調製する。試料溶液0.5mLをマイクロピペットを用いて量り、12×150㎜の試験管に入れ、37±0.5℃に加温し、５分間放置する。この試料溶液に基質溶液0.5mLをマイクロピペットを用いて加え、30秒以内に混合し、37±0.5℃で正確に15分間放置する。その後、反応停止液1.0mLをマイクロピペットを用いて加え、混合し、試料反応液とする。別に試験溶液0.5mLをマイクロピペットを用いて12×150㎜の試験管に入れ、37±0.5℃に加温し、５分間放置する。この試料溶液に反応停止液1.0mLをマイクロピペットを用いて加えた後、基質溶液0.5mLをマイクロピペットを用いて加え、混合し、試料対照液とする。

水1.8mLをマイクロピペットを用いて量り、別の12×150㎜の試験管に入れ、試料反応液0.2mLをマイクロピペットを用いて加え混合する。この溶液に発色液2.0mLをマイクロピペットを用いて加え混合し、50±0.5℃で15分間放置した後、室温まで放冷する。また、水2.0mLをマイクロピペットを用いて12×150㎜の試験管に入れ、発色液2.0mLをマイ

別表第２（第２条関係）

１～５　（略）

６　飼料添加物一般の試験法

（略）

⑴～⑬　（略）

⑭　酵素力試験法

①～⑦　（略）

⑧　フィチン酸分解力試験法

（略）

(i)・(ii)　（略）

（新設）